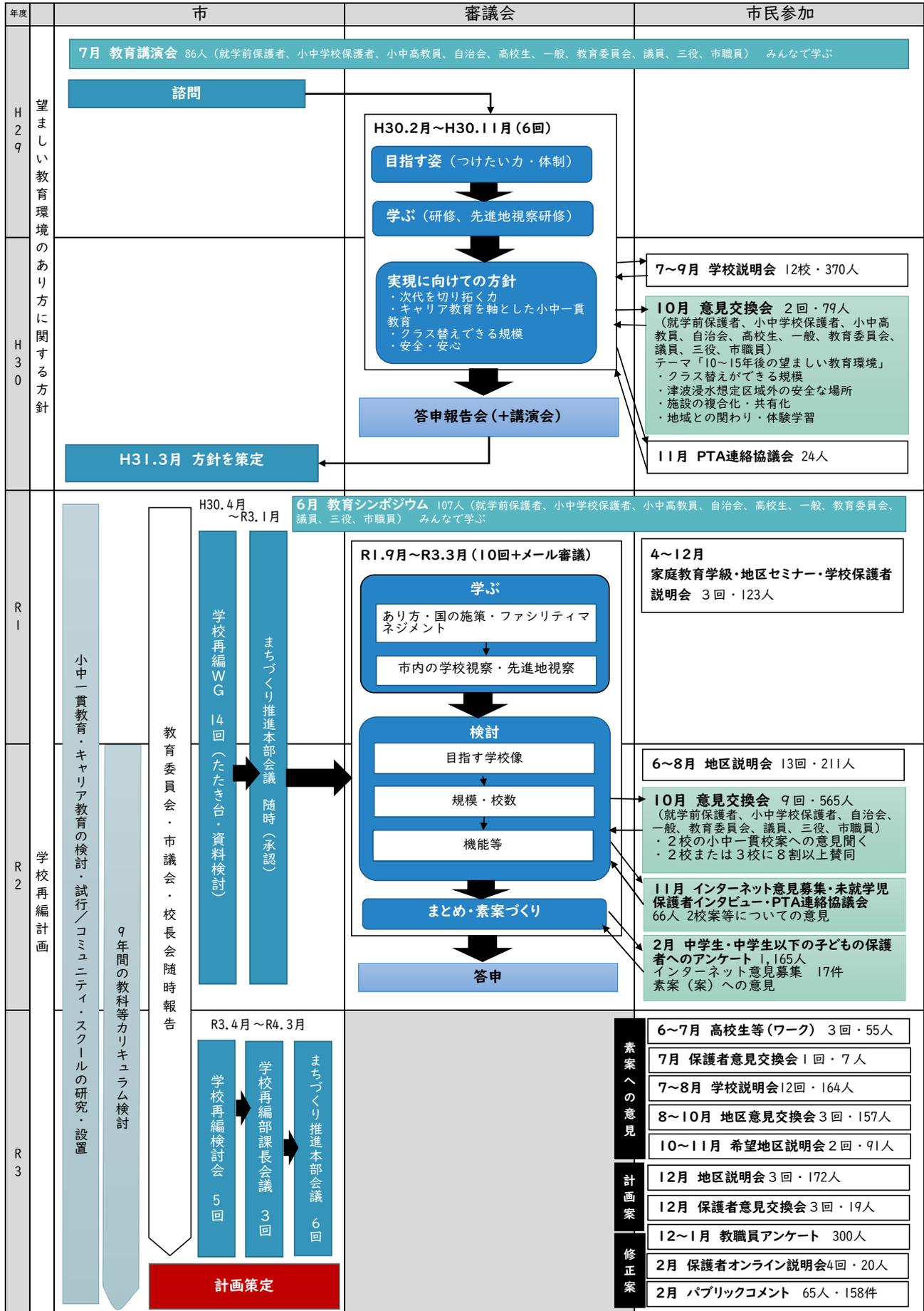


# 資料編

- 1 学校再編計画策定までの流れ
- 2 計画策定に係る市民参加等の状況
- 3 望ましい教育環境のあり方に関する方針

■学校再編計画策定までの流れ



## 未来の子どもたちのための新しい学校づくり計画策定に係る市民参加等の状況

### ■望ましい教育環境のあり方に関する方針に係る市民参加等一覧

No.	年度	名称	主体・対応	対象	人数	日時	趣旨・会議議題	主な意見や内容等	意見数
1	H29	教育講演会 (キックオフ)	教委	小中学校保護者、就学前保護者、小中高教職員、地区長、高校生、企業、一般(教育委員、市議会議員、市三役、幹部職員等)	86	7月29日(日) 13:30～16:30	・教育のあり方検討を始めることを知らせる。 ・社会情勢や国の方向性を知る中で、地域と学校のあり方について一緒に考える「最初の学びの場」とする。	・これからの教育について希望が持てた、地域と学校について考えることができた。という意見が多かった。 ・これから大切にしたい教育としては、「コミュニケーション力を高める教育」、次に「主体性を育てる教育」が順位が高かった。	86
2	H29	第1回教育のあり方検討委員会	審議会	学識経験を有する者、学校関係者、保護者、事業者、公募	10	2月1日(木) 13:30～16:30	・諮問・委員委嘱 ・教育内容「子どもにつけたい力」	・コミュニケーション能力、対話、創り出す力、課題発見・解決力、チャレンジ精神、非認知能力等が大切 ・力を基盤、手法等が分かるように示す	
3	H29	第2回教育のあり方検討委員会	審議会	学識経験を有する者、学校関係者、保護者、事業者、公募	9	3月5日(月) 13:30～16:30	・教育内容「子どもにつけたい力」	・力の図の完成 ・段階的な学びについて議論	
4	H30	第3回教育のあり方検討委員会	審議会	学識経験を有する者、学校関係者、保護者、事業者、公募	10	4月18日(水) 13:30～16:30	・教育内容を実現するための体制	次世代を生き抜く力の育成が目標。選ばれる牧之原市とするために、次の4項目をあげる。・主体性をベースにした個の育成、子どもが人とふれあう機会を確保する、次世代を見据えた施設設備・体制の充実、社会全体で育てる(育つ)パラダイム転換	
5	H30	教育のあり方検討委員会研修会	審議会	学識経験を有する者、学校関係者、保護者、事業者、公募	9	5月16日(水) 13:30～16:30	研修会 講師:島根県雲南市教育委員会職員 テーマ:「キャリア教育を柱とした雲南市の教育」	幼稚園から高校までの段階的な学び、カリキュラム、民間との協働等を学ぶ。	

No.	年度	名称	主体・対応	対象	人数	日時	趣旨・会議議題	主な意見や内容等	意見数
6	H30	校長説明	教委	相良中学校長	12	5月21日(月) 9:00~10:00	<ul style="list-style-type: none"> <li>・望ましい教育環境のあり方に関する方針の説明</li> <li>・人口や老朽化で心配されること、再編する場合の学校の形態、これからの子どもたちに必要な能力、連続した学びのために必要なカリキュラム・体制、教員や保護者への意見聴取方法等についての意見交換</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・子どもたちには自治力を育てる。</li> <li>・再編は仕方がないと思う。まちづくり・ひとづくりが大切。</li> <li>・すばらしい施設と教育ができるようにして、「あの学校に通いたい」と思ってもらいたい。</li> <li>・牧之原市はすばらしい教育ができる環境があるので、それを生かしたい。</li> <li>・9年間のカリキュラムがあるといいと思うが、小中一貫教育は見たこともないのでやれるか不安がある。</li> <li>・キャリア教育は大事。地域に根差して展望していく子どもを育てる。</li> <li>・9年間の姿が見れるのがよい。</li> <li>・地域の学校への思いは強いので理解を得られるか。</li> <li>・教員数が足りないのでサポート体制がほしい。また、仕事を精査してほしい。</li> <li>・保護者への意見聴取はWEBがよい。</li> <li>・アンケートだけでは吸い上げで終わる。意見交換できる形で市民意見を聴取してほしい。</li> <li>・学校組合の扱いがどうなるか。</li> </ul>	48
7	H30			相良小学校長		5月21日(月) 10:05~11:05			
8	H30			萩間小学校長		5月21日(月) 11:15~12:15			
9	H30			坂部小学校長		5月21日(月) 13:00~14:00			
10	H30			川崎小学校長		5月21日(月) 14:15~15:20			
11	H30			菅山小学校長		5月21日(月) 15:45~16:40			
12	H30			勝間田小学校長		5月22日(火) 13:00~14:00			
13	H30			牧之原中学校長		5月22日(火) 14:20~15:15			
14	H30			牧之原小学校長		5月22日(火) 15:20~16:30			
15	H30			榛原中学校長		5月23日(水) 10:00~11:15			
16	H30			細江小学校長		5月23日(水) 11:20~12:15			
17	H30			地頭方小学校長		5月23日(水) 13:30~14:10			
18	H30	教育のあり方検討委員会視察	審議会	学識経験を有する者、学校関係者、保護者、事業者、公募、(教育委員、事務局)	24	7月4日(水)~5日(木)	先進地視察 ①京都市立東山泉小中学校 ②京都教育大学附属京都小中学校 ③愛知県海部郡飛島村立飛島学園	小中一貫教育・複合施設の視察	
19	H30	第4回教育のあり方検討委員会	審議会	学識経験を有する者、学校関係者、保護者、事業者、公募	9	7月25日(月) 13:30~16:30	・教育内容を実現するための体制・施設設備	・9年間の連続した学びに向けてキャリア教育を軸とした小中一貫教育とコミュニティ・スクールの有効性を共有	

No.	年度	名称	主体・対応	対象	人数	日時	趣旨・会議議題	主な意見や内容等	意見数
20	H30	学校説明会	教委	牧之原中学校教職員	370	7月26日(木) 8:30	・検討の経過と方向性を伝え、意見をもらう	・コミュニティ・スクールをやるときはコーディネーターがほしい。 ・片浜の統合後の様子	84
21	H30			相良小学校教職員		7月26日(木) 10:30		・キャリア教育、小中一貫教育の必要性について	
22	H30			相良中学校教職員		7月26日(木) 13:00		・9年間のつながりある教育がなぜいいか	
23	H30			萩間小学校教職員		7月27日(金) 11:00		・地域の愛着を育てる ・建物の耐用年数を考えるともっとスピード感を持つべき	
24	H30			菅山小学校教職員		7月27日(金) 13:30		・現在の施設の安全面には不安がある ・地域への発信をしてほしい ・学校がなくなっても地域が活力を失わない策がほしい	
25	H30			細江小学校教職員		7月30日(月) 13:30		・小規模のよさがある ・規模より、統合してこんないいことがある、という統合のよさをアピールする	
26	H30			坂部小学校教職員		7月30日(月) 15:45		・職員数への不安 ・地域への情報提供の方法	
27	H30			榛原中学校教職員		8月27日(月) 13:00		・キャリア教育は大切 ・子どもが将来的にUターンしてくるような市の施策も必要 ・プールについて	
28	H30			川崎小学校教職員		8月29日(水) 13:00		・早めに枠を決めてすり合わせをしていく方がよいのではないか	
29	H30			地頭方小学校教職員		8月30日(木) 13:30		・地域意見の聴取方法 ・管轄が違うことによる子どもへの影響 ・プールや図書館の共有化 ・もう一度耐震診断をしてほしい	
30	H30			勝間田小学校教職員		9月4日(火) 15:30		・子どもの人数の減り具合が衝撃 ・クラス替えができた方がいい ・キャリア教育は大切だが難しさもある ・一人職の扱い	
31	H30			牧之原小学校教職員		9月26日(水) 14:45		・統合どうなるか。統合はいやだ、ではない。やらないと学校が成り立たない。 ・10年後には再編ということになると、短い時間の中で急ぎ足だけでも慎重にやっていかないとけない。	
32	H30	第5回教育のあり方検討委員会	審議会	学識経験を有する者、学校関係者、保護者、事業者、公募	9	8月21日(月) 14:30～16:45	・施設設備・規模・時期	・津波浸水区域外、防災機能の充実、時代に対応した設備、跡地の利活用 ・多様な価値観に出会うためにもクラス替えができる規模が必要 ・この案を示し、市民と意見交換会をしてさらに検討する	

No.	年度	名称	主体・対応	対象	人数	日時	趣旨・会議議題	主な意見や内容等	意見数
33	H30	市民意見交換会(榛原)	審議会	小中学校保護者、就学前保護者、小中高教職員、区長・区長代理、高校生(教育委員、市議会議員、市三役、幹部職員等)	79	10月2日(火) 19:00~21:00	・市の現状や国の新たな教育政策等を知る ・10~15年後の学校教育における望ましい教育環境とは何か話し合う	・学校を集約する・津波浸水想定区域を避ける・施設に地域の人が活動できる場所を・複合化、共有化した施設・人が集まる場所・単学級ではなくクラス替えができる規模に・地域が学校に関わり体験できる場をつくる	147
34	H30	市民意見交換会(相良)				10月4日(木) 19:00~21:00			
35	H30	PTA連絡協議会代表者会議	教委	市内全小中学校校長、PTA会長	24	11月21日(水) 19:00~20:30	・10月に実施した意見交換会をPTA連絡協議会として行う	・魅力ある学校をつくる・時代に追いつく・よさをアピール・統廃合で終わらずいいものをつくる・学組を後回しにしない・いろいろな施設をまとめる・地域でなく牧之原市全体で子どもを育てる	40
36	H30	第6回教育のあり方検討委員会	審議会	学識経験を有する者、学校関係者、保護者、事業者、公募	9	11月22日(木) 13:30~16:30	・答申書まとめ	・意見交換会等の意見を踏まえ作成した答申書案を元に協議。文言修正や追加等し、答申書としてまとめる。	
37	H30	答申報告会	審議会	教育委員、教職員、あり方検討委員、教育委員会	45	12月20日(木) 13:30~16:30	・答申・理解を深めるため、先進的な学校の校長からの講演を聴き、今後に生かす	・実践校が感じている小中一貫教育のメリット・デメリットやつくり方について質疑をし、理解を深めた。	
参加人数					705	意見数			405

## ■ 学校再編計画に係る市民参加等一覧

No.	年度	名称	主体・対応	対象	人数	日時	趣旨・会議議題	主な意見や内容等	意見数
1	R1	家庭教育学級	教委	市内小中学校・幼稚園等の保護者代表・教員	63	4月24日(水) 14:00~15:00	望ましい教育のあり方に関する方針(以下「あり方方針」という)の説明と意見交換	・期待する意見が多かった	6
2	R1	シンポジウム	教委	区役員・教員・PTA・幼保保護者・高校生・企業・一般(教育委員、市議会議員、市三役、幹部職員等)	107	6月22日(土) 13:30~16:30	・方針への理解を深める。意義を考え、市と市民が同じ方向を見て取り組む土壌をつくる。 講話 講師:生重幸恵氏 テーマ「地域と協働して進めるキャリア教育の必要性」 対話の時間あり	・講演会は、参加してよかったが76%と多く、好評であった。 ・参加者は40代以下が47%で、保護者やこれからの世代に多く聞いて多く聞いてもらうことができた。 ・10年後の学校で特に重視したいことでは、「先生や専門スタッフ等の充実」が65票、「災害に強いこと」が50票、「施設の複合化」が36票と高かった。 ・意見数は、テーブル意見とアンケートを足した数	252
3	R1	第1回学校再編計画策定委員会	審議会	学識経験を有する者、学校関係者、保護者、自治会、公募	10	9月30日(月) 13:30~16:30	・諮問・委員委嘱 ・あり方方針や国の政策、ファシリティ・マネジメントについて学ぶ ・意見交換	・小中一貫校については、牧之原らしいものを作れるところからやっていく。 ・もっと学ぶ必要がある。 ・生活インフラと絡めて考える。 ・地域と築いてきたの関係性を保持して新しい学校をつくる。	

No.	年度	名称	主体・対応	対象	人数	日時	趣旨・会議議題	主な意見や内容等	意見数
4	R1	川崎きらめきセミナー	教委	川崎きらめきセミナー受講者	30	11月25日(月) 19:30～20:40	・あり方方針の説明 ・自治会に働きかけ、説明会を開きたいと言ってくれたところを実施	・少子化や老朽化で再編は仕方ないことだとの意見が多い。	5
5	R1	第2回学校再編計画策定委員会	審議会	学識経験を有する者、学校関係者、保護者、自治会、公募	10	12月4日(水) 13:30～16:30	・市の現状を知るために、学校視察(校種や規模が違う、菅山小学校・相良中学校)、市の各種データを確認する	・老朽化がひどいが、教員が箇所を把握しているので安心できる。 ・教員の対応に期待する策でなく、場所も施設も安全なであることを大前提にする。 ・持ちすぎているハードに対して、適正に管理ができていない。 ・小中一貫校のよさは視察で確認する。	
6	R1	牧小保護者説明会	教委	牧小保護者(任意)	30	12月11日(水) 13:20～13:40	・あり方方針の説明 ・学校に働きかけ、説明会を開きたいと言ってくれたところを実施	・牧之原小学校が再編対象になるか。 →これから検討する。	2
7	R1	学校再編計画策定委員会視察	審議会	学識経験を有する者、学校関係者、保護者、自治会、公募(教育委員、事務局)	26	1月23日～ 1月24日	先進地視察(小中一貫校) ①茨城県つくば市立秀峰筑波義務教育学校 ②茨城県稲敷郡河内町立かわち学園 ③千葉県流山市立おおたかの森小学校・中学校	・義務教育学校と小中一貫校を視察 ・カリキュラムや学校運営、子どもたちの様子を確認 ・新しい施設の機能を知る	
8	R1	第3回学校再編計画策定委員会	審議会	学識経験を有する者、学校関係者、保護者、自治会、公募	10	3月2日(月) 13:30～16:30	・目指す学校像について ①通いたい・通わせたいと思われる魅力的な小中一貫校②そのための規模③検討に必要な資料についてWS形式で実施。	・災害に強く安全に通学ができる学校。(立地・施設両面で安全・安心) ・子どもの「できた、分かった」を大事に ・牧之原市らしい活動ができる ・学校と地域が連携でき、「みんなの学校」として地域や教育活動をつなぐことができる ・津波がこなくて市街地に近い場所 ・人口重心を見ながらになるが、榛原・相良中学校区に分ける。 ・牧之原地区については、どちらかに通うか、または単独で残すかだが、学級数が少ない。	
9	R2	第4回学校再編計画策定委員会	審議会	学識経験を有する者、学校関係者、保護者、自治会、公募	10	4月14日(火) 13:30～16:30	・各校数のメリット・デメリットの洗い出し ・大切にしたい事項の共有	・老朽化の状況から12校を現状どおり残すことは厳しい。 ・1校にすることは、開校を10年後と考えると開校時の人数が多くなりすぎ厳しい。 ・2～3校をベースにしなが、場所の候補も含め、地域性、関わり、多様性、機会均等をもう少し議論する。	

No.	年度	名称	主体・対応	対象	人数	日時	趣旨・会議議題	主な意見や内容等	意見数
10	R2	地区等説明会	教委	地頭方地区区長5人	5	6月9日(火) 11:00	<ul style="list-style-type: none"> <li>・あり方方針の説明と質疑応答</li> <li>・地区の役員にあり方方針を知ってもらうため、各区長に依頼し、区会や班長会等で説明の時間をもらった。</li> <li>・どの機会に説明するかは区の状況に応じて決めてもらった。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・意見は進め方の確認のみだった。意見交換会の実施が決まっていたのでここでの意見は少ない。</li> </ul>	5
11	R2			地頭方地区区長5人	5	6月16日(火) 19:00～19:30			
12	R2			牧之原区(榛原) 区長・区長代理・町内会長・議員等	10	6月21日(日) 19:00～19:30			
13	R2			牧之原区(相良) 区長・副区長・町内会長・議員等	18	6月22日(月) 19:30～20:00			
14	R2			川崎区5役会	5	7月13日(月) 15:00			
15	R2			静波区評議員会	30	7月15日(水) 19:00			
16	R2			相良地区絆づくり委員 (5区長+α)	35	7月16日(木) 19:00			
17	R2			勝間田区区役員会	14	7月17日(金) 19:30			
18	R2			菅山区班長会	27	7月23日(木・祝) 19:00			
19	R2			片浜区区会	12	7月24日(金・祝) 19:00			
20	R2			萩間地区5区区長	5	8月7日(金) 11:00			
21	R2			細江区町内会長会	30	8月17日(月) 19:00			
22	R2			坂部区区役員会	15	8月18日(火) 19:30			
23	R2	第5回学校再編 計画策定委員会	審議会	学識経験を有する者、学校関係者、保護者、自治会、公募	10	7月7日(火) 13:30～16:30	<ul style="list-style-type: none"> <li>・校数の絞込みと理由について</li> <li>・学校組合について</li> </ul> WS形式で協議。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・新しい学校は旧相良町・旧榛原町に1校ずつの計2校がよい。</li> <li>・理由は、人数的に教育がしやすく、地域の特色も活かしやすい。通学もしやすい。</li> <li>・牧之原小・中学校については、高台等の状況を見て判断したいのでしばらく残す意見と単学級のためどちらかの学校に含める意見と分かれた。</li> <li>・今までの各校のものが集約されるというよりも、これまで地域との連携のよさを引き継ぎつつ、新しくつくっていく。</li> <li>・保護者や地域と議論する機会が必要。意見を吸い上げたい。</li> </ul>	

No.	年度	名称	主体・対応	対象	人数	日時	趣旨・会議議題	主な意見や内容等	意見数
24	R2	御前崎市/御前崎市菊川市学校組合	教委	教育委員	15	7月22日(水) 9:30	<ul style="list-style-type: none"> <li>・あり方方針の説明</li> <li>・再編計画の検討経過</li> <li>・質疑応答</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・再編計画の学校区については今後の検討のため、進め方の確認のみで具体的な意見はなかった。</li> </ul>	3
25	R2	第6回学校再編計画策定委員会	審議会	学識経験を有する者、学校関係者、保護者、自治会、公募	10	9月4日(金) 13:30～16:40	<ul style="list-style-type: none"> <li>・これまで検討してきた学校再編の基本的な考え方をまとめる。</li> <li>・学校像、学校区等の考え方の整理</li> <li>・意見交換会について</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・目指す学校像「みんなの学校」と概念図の協議・確定。</li> <li>・学校数を2校、学校組合の表現を確認。</li> <li>・WSや協議内容から事務局がまとめた学校の形態、場所、通学方法、複合化・共有化、空き施設の利活用、スケジュールについてさらに協議。</li> <li>・意見交換会のやり方検討。</li> <li>・これまで議論してきた内容について市民の意見を踏まえて方向性を決めたいので、次回さらに議論する。</li> </ul>	
26	R2	意見交換会(細江)	審議会	9小学校区の自治会、幼・保育園、小・中学校の保護者(教育委員、市議会議員、三役、市幹部職員)	565	10月7日(水) 19:00～21:00	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学校再編計画検討の周知及び学校再編の基本的な考え方について、市民意見をもたうことを目的に小学校区でワークショップを実施。</li> <li>・小中一貫校の2校案についての賛否と新しい学校に必要なものについて意見を聞いた。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・付箋の意見、質問数 723件</li> <li>・アンケート意見 373件</li> <li>・学校区については、約7割の298件中212件が2校案に賛成。3校案を含めると8割以上が賛成。</li> <li>理由としては、人口減少や施設老朽化の現状、クラス替えができ、多様な人と触れ合えるようにしたいという子どもの学ぶ環境、通学距離、予算等があげられている。</li> <li>・1校案を推す意見は5件、3校以上の案は8件だった。</li> <li>・若い保護者の意見を聞いてほしいという意見が多かった。</li> </ul>	1,096
27	R2	意見交換会(地頭方)				10/16(金) 19:00～21:00			
28	R2	意見交換会(牧之原)				10/19(月) 19:00～21:00			
29	R2	意見交換会(萩間)				10/20(火) 19:00～21:00			
30	R2	意見交換会(相良)				10/22(木) 19:00～21:00			
31	R2	意見交換会(川崎)				10/26(月) 19:00～21:00			
32	R2	意見交換会(菅山)				10/27(火) 19:00～21:00			
33	R2	意見交換会(坂部)				10/29(木) 19:00～21:00			
34	R2	意見交換会(勝間田)	10/30(金) 19:00～21:00						
35	R2	第7回学校再編計画策定委員会	審議会	学識経験を有する者、学校関係者、保護者、自治会、公募	10	11月12日(木) 13:30～16:40	<ul style="list-style-type: none"> <li>意見交換会を踏まえての協議</li> <li>・学校数と学校組合、小中一貫教育、コミュニティ・スクールについて</li> <li>・通学方法等の表現等について</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・市民意見交換会の振り返り。</li> <li>・2校案を多くの市民からの賛同を得られたことで、2校案で計画素案をつくっていくことを確認。</li> <li>・それに向けて意見交換会の意見を確認しながら課題となる学校組合や小中一貫教育等の考え方や通学方法等の表現等を協議。</li> <li>次回引き続き協議を行うため、協議による決定事項なし。</li> </ul>	

No.	年度	名称	主体・対応	対象	人数	日時	趣旨・会議議題	主な意見や内容等	意見数
36	R2	市PTA連絡協議会	教委	市内12小中学校の校長・PTA会長	23	11月18日	・意見交換会とそれを受けて学校再編計画策定委員会で検討した内容を説明し、グループワークにより意見をもらった。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・基本的には賛成が多い。</li> <li>・魅力ある教育、魅力あるまちをつくる。まちづくりのビジョンが必要。</li> <li>・みんなでいい学校をつくる機運ができるといい。新しい学校が「おらが学校」となるように。</li> <li>・子どものことを考えると数が必要だと思う。いい施設でクラス替えができ、いろいろな経験をさせたい。</li> <li>・これまでやってきた地域の体験学習を大切にしたい。</li> <li>・小中一貫になると教員は流れが分かりやすい。</li> <li>・PTA組織への心配</li> </ul>	65
37	R2	未就学児の保護者へのアンケート・インタビュー	審議会	子育て支援センター来訪者	23	11/30(月)～12/4(金)	・榛原と相良の子育て支援センター午前の部で学校再編の考え方を伝え、インタビューとアンケートを行った。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学校再編計画を知っている保護者が少ない。</li> <li>・子どもにつけたい力は、一番はコミュニケーション能力、次いで創造力・発想力だった。</li> <li>・施設より教育内容に重きを置く人が多い。</li> <li>・引き続き検討となっている牧之原小学校区の保護者は単学級で残ることを不安に思う人が多い。</li> </ul>	23
38	R2	インターネット意見募集	審議会	市民、市に通学又は勤務している人	20	12/3(木)～1/15(金)	・意見交換会の資料を動画にしてホームページ上に載せ、意見募集を実施した。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・賛成意見が多い。早期再編を望む声も複数ある。</li> <li>・津波が来ないところへ移転を望む。</li> <li>・通学方法については負担がないように。</li> <li>・子どもの意見を聞いてほしい。</li> <li>・牧之原小学校区は残してほしい。</li> <li>・人口増加施策を先に行うべき。</li> </ul>	20
39	R2	第8回学校再編計画策定委員会	審議会	学識経験を有する者、学校関係者、保護者、自治会、公募	10	12月17日(木) 13:30～16:30	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学校再編計画素案について</li> <li>・若者を対象とした意見交換会について</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・計画素案の表現等の協議。</li> <li>・素案のため思いも書き込むが、読んでもらえるよう端的に表現する。</li> <li>・10月の意見交換会で若い保護者や子どもの意見を聞いてほしいとの意見が多かったので、対象者を40歳代以下または中学生以下の子どもを持つ保護者として参加者を限定せず意見交換会を実施。</li> <li>・中学生対象と保護者対象のアンケートを併せて実施。</li> </ul>	
40	R2	第9回学校再編計画策定委員会	審議会	学識経験を有する者、学校関係者、保護者、自治会、公募	10	1月13日(水) 13:30～16:30	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学校再編計画素案について</li> <li>・意見交換会の中止、アンケート及びインターネットでの意見聴取の検討</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・第8回の意見を踏まえた修正案をさらに協議。</li> <li>・コロナの感染者が増加したことから、意見交換会は中止し、中学生と保護者対象のアンケートの実施のみとする。</li> <li>・併せて一般向けのインターネットでの意見募集を行う。</li> </ul>	

No.	年度	名称	主体・対応	対象	人数	日時	趣旨・会議議題	主な意見や内容等	意見数
41	R2	学校再編計画策定委員会	審議会	学識経験を有する者、学校関係者、保護者、自治会、公募	10	1月28日(木)～2月3日(水)	・第9回策定委員会の意見を元に計画素案を修正したものやアンケート等についてメール審議を実施。	・計画素案、素案概要版、アンケート実施要項、アンケートチラシ、アンケートの案についてメール審議。 ・意見を踏まえて修正。	
42	R2	中学生アンケート	審議会	中学校1～3年生	191	2/12(金)～2/28(日)	・WEBアンケート実施	多かった意見 ・学校でよかったと思うことは、友達や仲間との出会いや活動 ・通いたい学校は、授業が分かりやすく、部活動の種類がある学校 ・施設面では、トイレがきれいな学校	191
43	R2	保護者アンケート	審議会	0歳～中学生の保護者	974	2/12(金)～2/28(日)	・WEBアンケート実施	・再編に期待している意見が多く、428件。反対は22件だった。 ・通学方法や1クラスの人数が増えてしまうのではないかと不安の声があった。 ・早期開校を望む声がある。 ・学校組合については、地頭方地区は、再編に期待を寄せている意見が36件、反対意見が8件だった。牧之原地区は、再編に期待を寄せている意見が25件、反対意見は20件だった。	974
44	R2	インターネット意見募集	審議会	市民、市に通学又は勤務している人	17	2/15(月)～3/7(日)	・市のホームページに学校再編計画素案(案)を載せ、意見を募集	・賛成意見が多い。 ・10年後は遅すぎる。 ・通学方法や場所は十分に検討を。 ・小規模校がよい。 ・まちづくりと併せて考える。 ・小中一貫のよさが分からない。	17
45	R2	第10回学校再編計画策定委員会	審議会	学識経験を有する者、学校関係者、保護者、自治会、公募	10	3月18日(木)14:00～16:00	意見聴取を踏まえて学校再編計画素案の協議 ・学校再編計画素案のまとめ ・付帯意見等	・思いが伝わるようにする。 ・語句の説明を入れる。 ・若者を対象とした2回目意見交換会ができなかったので、若者の意見をさらに聞いて策定してもらいたい。 ・策定までの教育環境への配慮	
46	R2	答申報告会	審議会	学識経験を有する者、学校関係者、保護者、自治会、公募	30	3月29日(月)15:00～16:00	学校再編計画素案を教育委員会に答申する	・感染症防止対策として、併せて講演会を行うことはせず、出席者も策定委員、教育委員、市長、教育長、部課長、事務局に限定して実施。	
47	R3	地域リーダー育成プロジェクト	教委	相良高校・榛原高校の高校生	10	6/22(火)16:15～18:15	①、② は学校ごとに実施 これからの社会はどんな社会になるか、その社会で生きていくために必要な力とは。 ③は2校合同実施 未来の学校をデザインする	ワークショップ形式で開催。 必要な力についてまとめる	75
				9	6/24(木)16:30～18:30	86			
				36	7/27(火)13:30～15:30	176			

No.	年度	名称	主体・対応	対象	人数	日時	趣旨・会議議題	主な意見や内容等	意見数
50	R3	保護者意見交換会	教委	未就学児の保護者	7	7/22(木・祝) 14:00～16:00	・学校再編計画素案の内容説明 ・意見交換	新しい学校に期待する意見が多かった。これから進めていくときも情報提供してほしいとの要望をもらった。	47
51	R3	教職員意見交換会	教委	相良小学校	280	7/21(水) 13:15～14:10	・学校再編計画素案の内容説明 ・意見交換	・質問・意見 104件 ・アンケート 173件 ・今後の進め方、教員免許、義務教育学校、施設等について	277
52	R3		教委	相良中学校		7/26(月) 9:00～10:00			
53	R3		教委	牧之原中学校		7/26(月) 11:00～12:00			
54	R3		教委	牧之原小学校		7/26(月) 13:00～13:50			
55	R3		教委	地頭方小学校		7/27(火) 10:15～11:00			
56	R3		教委	菅山小学校		7/28(水) 9:00～10:00			
57	R3		教委	萩間小学校		7/28(水) 11:00～12:15			
58	R3		教委	勝間田小学校		7/28(水) 13:00～14:00			
59	R3		教委	川崎小学校		7/29(木) 10:30～11:30			
60	R3		教委	細江小学校		7/29(木) 13:30～14:40			
61	R3		教委	坂部小学校		7/30(金) 10:30～12:00			
62	R3		教委	榛原中学校		7/30(金) 13:30～14:10			
63	R3	地域意見交換会(榛原)	教委	小中学校保護者、就学前保護者、区長・区長代理、一般(教育委員、市議会議員、市三役、幹部職員等)	98	8月5日(木) 19:00～21:00	・学校再編計画素案の内容説明 ・意見交換	・意見出しの項目を「新しい学校に期待すること」、「これだけは大事にしたいこと」、「これからの進め方」、「もっと聞きたいこと」に分けてグループワークで意見交換したのち、質疑応答を行った。 ・ジャンルごとの意見はハードについては65件ともっとも多く、ついで、教育内容、通学、情報発信については32件となっている。	385
64	R3	地域意見交換会(相良)	教委			8月6日(金) 19:00～21:00			
65	R3	地域意見交換会(牧之原)	教委		59	10月6日(水) 19:00～21:00		・牧之原小中学校区で育つ子どもたちにとってどのような環境がよいと思うかグループワークを行うとともに、計画素案についての質疑応答を行った。 ・牧之原小中学校を残す意見が多かった。	223

No.	年度	名称	主体・対応	対象	人数	日時	趣旨・会議議題	主な意見や内容等	意見数
66	R3	地頭方地区説明会	教委	地頭方地区在住者	56	10月1日(金) 19:00～21:00	・学校再編計画素案の内容説明 ・質疑応答	地区からの要望により開催。具体的内容についての意見が多かった。新しい学校づくりに期待する意見ももらっている。	42
67	R3	菊川市牧之原上・下町内会説明会	教委	菊川市牧之原上・下町内会 在住者	35	11月17日(水) 19:00～20:30	・学校再編計画素案の内容説明 ・質疑応答	菊川市牧之原上・下町内会からの要望により開催。菊川市教育委員会同席。計画内容の理解を深める会となった。	6
68	R3	臨時議員全員協議会	教委	市議会議員		12月15日(水) 8:55～11:50	学校再編計画案の説明	教育委員会の内容については大枠は了解。まちづくり部分についてさらに意見交換をする。	
69	R3	地域説明会(相良)	教委	小中学校保護者、就学前 保護者、区長・区長代理、 一般(教育委員、市議会議員、 市三役、幹部職員等)	172	12月21日(火) 19:00～21:00	・学校再編計画素案の内容説明 ・意見交換	・意見、質問321件、アンケート109件 ・学校区についての意見は少なく、義務教育学校へのメリットを感じる人多数。 ・相良地区については、進め方について意見が多かった。 ・牧之原地区は、再編対象外となったことに賛同している。(菊川市教委同席)	430
70	R3	地域説明会(榛原)	教委			12月22日(水) 19:00～21:00			
71	R3	地域説明会(牧之原)	教委			12月24日(金) 19:00～20:30			
72	R3	保護者意見交換会	こころね・教委	未就学児の保護者	19	12月22日(水) 10:00～11:40	・学校再編計画素案の内容説明 ・意見交換	・再編に期待する声が多い。 ・子どもはよいが、大人が馴染むか心配 ・牧之原小中学校のみ残ることへの不安	17
73						12月23日(木) 10:00～11:40			
74						12月24日(金) 10:00～11:40			
75	R3	教職員アンケート	教委	市内12小中学校全教職員	300	12月下旬～1月上旬	各校で校長から教職員へ説明	・義務教育学校や小中一貫教育に前向きな意見が多い ・今後どのように進めるのか早期に示してほしい ・教職員の体制づくり、すり合わせの必要性等	387
76	R3	パブリックコメント	審議会	市民、市に通学又は勤務している人	65	1月20日(木)～2月18日(金)	学校再編計画案への意見	・意見が提出しやすいようオンラインの入力フォームでの提出方法を新規に取り入れた。65件中60件が入力フォームで提出。 ・計画案の修正意見だけでなく、質問も多かった。 ・意見として一番多かったのは、教育内容についてであり、全体的にソフト面に関する意見が多かった。	157

No.	年度	名称	主体・対応	対象	人数	日時	趣旨・会議議題	主な意見や内容等	意見数
77	R3	保護者オンライン説明会	教委	中学生以下の子どもを持つ保護者・これから子どもを生み育てたい方	20	2月6日(日) 10:00～11:00	・学校再編計画案説明 ・質疑応答	・子どもが生まれたばかりで意見交換会に行けないのでオンライン開催はありがたい。 ・女性からは小中一貫教育や通学等についての質問 ・男性からは情報提供の方法についての意見等	31
78						2月8日(火) 19:00～20:00			
79						2月9日(水) 10:00～11:00			
80						2月9日(水) 19:00～20:00			
81	R3	臨時議会全員協議会	教委	市議会議員		2月7日(月) 10:30～12:00	・跡地利活用 ・都市計画マスタープランとの整合等	跡地利活用の検討時期、都市計画マスタープランとの関係、施設一体型等について意見をもらった	
82	R3	臨時議会全員協議会	教委	市議会議員		3月18日(金)	・パブリックコメント等報告 ・学校再編計画最終案	・計画案への修正意見 ・計画策定のための市民参加と計画の周知について ・教職員アンケートについて	
参加人数					3,601	意見数			4,998

**参加人数合計 4,306 人**

**意見数 5,403 件**

※ 随時、市議会、市校長会、御前崎市及び菊川市に報告(情報提供)。

※ まちづくり推進本部会議、ワーキンググループ(課長)、部課長会議(部課長)、検討会(係長)において関係部局で協議

# 牧之原市望ましい教育環境の あり方に関する方針

平成31年3月

牧之原市教育委員会  
牧之原市菊川市学校組合教育委員会



# 目次



## 1 牧之原市望ましい教育環境に関する方針の概要

1	方針策定の目的	……	2
2	方針の位置づけ	……	2
3	方針期間	……	2
4	方針の対象	……	2
5	牧之原市の現状	……	3



## 2 取組の方向と施策

1	考え方	……	3
①	目標	……	3
②	教育内容と体制	……	3～4
③	施設環境	……	4
2	体系・施策内容	……	5
①	体系	……	5
②	施策	……	6～11
3	推進方法・体制		
①	進め方	……	12
②	想定されるスケジュール	……	13



## 3 方針資料編

…… 19～50



# 1 牧之原市望ましい教育環境に関する方針の概要

## 1 方針策定の目的

AI（人工知能）などの技術革新とグローバル化の進展、人口減少や人生 100 年時代の到来により、社会が大きく変化しようとしている。

義務教育制度のあり方についても、平成 28 年 4 月 1 日「学校教育法等の一部を改正する法律」により義務教育学校の設置が可能になるなど、市町村が義務教育のあり方をデザインすることができるようになった。

平成 27 年度に策定された第 2 次牧之原市総合計画では、「若者が魅力を感じる教育環境の実現」、教育大綱では、「子どもたちが学びやすい環境を整えるため小学校の規模と配置の適正化を図る」こと、さらには、平成 28 年 11 月に策定された「牧之原市公共施設マネジメント基本計画」の方針では、「小中連携教育を進め、魅力ある教育環境を実現するため、小中学校再編計画を策定する」ことが謳われている。

これらを進めるにあたり、市教育委員会では、「牧之原市教育のあり方検討委員会」を設置し、「未来の牧之原市を見据えた、望ましい教育環境のあり方」について検討を行った。(資料 1) この検討結果を踏まえ、「望ましい教育環境」実現のため、ここに、市教育委員会として本方針を策定する。

## 2 方針の位置づけ

本方針は、前述の「牧之原市教育大綱」を具体化するための方針であり、「第 2 次牧之原市総合計画」及び「牧之原市公共施設マネジメント基本計画」につながるものである。

## 3 方針期間

本方針は、2019 年度を初年度とし、2030 年度を目標年度とする。

## 4 方針の対象

本方針は、義務教育段階における学校教育を中核としたものであり、小学生・中学生を主な対象としている。

牧之原市は、人口減少により2000年からの20年間で児童・生徒数が半減し、さらに今後も減少していくことが見込まれており、各学校の小規模化が一層進むことが予測されている。また、12校ある校舎の多くは数年後には築50年を経過する上に、津波浸水想定区域に4校が立地している。

子どもの全国学力・学習調査等における学力は、全国平均とほぼ同等であるが、家庭での学習時間は少ない結果となっている。自己肯定感は全国平均より高いが、子どもの外部との関わり方を見ると、たくましさや、やり抜く力をさらに育てる必要があると感じる教職員や保護者が多い。また、全国的な傾向と同様に、小学校から中学校に進学した際に、不登校等が増加する状況がある。

学校と地域との関わり具合は、全国平均より高く、体験的な学習等へも地域から積極的な支援がされている。しかし、地域差があることや、「牧之原市」としての一体感を醸成する必要性について関係者から指摘されている。また、子どもが少人数であれば教員の眼が届きやすい反面、人間関係の固定化や学習内容に応じた規模の活動が難しいという面もある。その他、子どもの育ちについて学校が担う範囲が広くなりすぎ、そのことが教職員の多忙化の一因となっていることや、機器の老朽化等、学ぶ環境にも多くの課題が見られる。

## 2

## 取組の方向と施策

## 1

## 考え方

## ① 目標

これからの予測困難な社会においては、子どもが自立し、主体的に社会を生き抜くことができる人間力を身につけていく必要がある。心身のたくましさや思いやりの心などを大切にし、さまざまな人・もの・ことに触れ、多様性を受け入れるとともに、自分で新しい考え方やアイデアを生み出し、主体的に行動できることが、子どもが自分の未来を切り拓く力となると考える。

市では、義務教育期間で「次代を切り拓く力」を育てることを目標にし、義務教育9年間の学びを系統立てたものとする。また、学び、その学んだことを活用して新しいことを創造し、それを社会の中で実際にやってみることができる「学びの循環」をつくる。そして、それを「対話・体験・協働」により行うことで、より豊かな学びにすることができるようになる。

## ② 教育内容と体制

次代を切り拓く力を育てるために、キャリア教育（資料3）を軸にした小中一貫教育（資料4）と社会全体で子どもを育てる仕組みを実現する。

キャリア教育とは、自分のよさを見つけ発信する力や、自分の将来の目標を立て、それを実現するために必要な力を身に付ける教育である。在学中から、実社会の中での活動を通して、人との関わり方を学んだり、多様な人と協力して物事にチャレンジしたりできるようにする。

キャリア教育を軸とした小中一貫教育実現のために、そのカリキュラムや体制等の検討を進める。市が9年間の系統立てた教育をデザインすることにより、一貫した指導を実現することができるとともに、中1ギャップや教科の専門性への対応及び多様性のある集団活動を可能にすると考え。小中一貫校では、きめ細やかな対応ができるように教員以外の専門スタッフの配置や教員の業務改善を図る。教科等の特性に応じて少人数指導を導入するなど、教育活動がより充実したものとなるようにする。カリキュラムや体制は、構築後もその効果等を検証し、より良いものに修正していく。また、保育園・幼稚園及び高等学校との連携についても併せて考える。

学校、地域・企業、及び家庭がそれぞれ役割分担しながら、主体的に子どもを育てるために、地域学校協働活動等と一体的な「コミュニティ・スクール」（資料5）をつくる。コミュニティ・スクールは、最終的に小中一貫校に合うものとし、キャリア教育を協働で推進する役割を持つとともに、社会とつながる体験等を主に実施できるようにする。

## ③ 施設環境

学校施設は、安心・安全で、学びやすく、通いたい・通わせたいと思ってもらえる魅力的な小中一貫校を目指す。学校の規模は、1学年3学級以上を基本とし、建築後20年間は単学級とならないものとする。場所は、津波浸水想定区域外とし、防災機能を充実させるなど安心・安全な施設にするとともに、エコスクール等環境への配慮があるものとする。また、ICT環境の充実など時代に対応した設備を持つとともに、施設の一部又は隣接した場所に、図書館やプール、地域の人が活動できるスペース等、市民と共有できる機能を備え、人づくりや文化の拠点となるものを目指す。

新しい学校は、2030年度までの開校を目指し、その学校区、立地、機能及びスケジュール等については、2019年度から策定する「学校再編計画」において検討するものとする。なお、本検討は、まちづくりと合わせて考える必要があるため、全庁体制で取り組んでいく。

なお、これらの検討に当たっては、組合関係市町と必要な調整を行う。

## 2 体系・施策内容

### ① 体系

教育理念 <b>こころさしを持ち 夢ある人づくり</b>	
教育目標 <b>次代を切り拓く力</b>	
教育方針1 <b>次代を切り拓く力の育成</b>	
施策1 小中一貫教育の推進	取組1 小中一貫プログラムの作成 ●人間力の育成 ●魅力ある授業づくり
	取組2 個に応じた教育 ●少人数指導・習熟度別指導 ●特別支援教育
	取組3 国際理解・外国語教育 ●異文化理解 ●英語力向上
施策2 時代に対応した教育の 充実	取組4 ICT教育等 ●情報活用能力の育成 ●プログラミング学習
	取組5 科学教育 ●科学への探究心を育む教育
	取組6 問題発見・解決プログラム ●地域連携・体験型実践プログラムの作成
教育方針2 <b>望ましい教育環境の整備</b>	
施策3 学びやすい施設・設備	取組7 学校再編 ●学校再編計画の策定と実行 ●既存施設の保全計画
	取組8 教育機器等の充実 ●ICT環境の整備 ●教育備品の整備
	取組9 学校図書館の充実 ●図書の充実と司書の配置 ●授業支援できる環境の整備
施策4 教育活動を充実させる 体制の整備	取組10 教職員の研修の充実 ●指導力向上研修の実施
	取組11 教職員をサポートする多様な人材の充実 ●チーム学校の実現 ●外部人材の活用
	取組12 校務効率化 ●校務情報化の推進
教育方針3 <b>社会全体で子どもを育てる仕組みの構築</b>	
施策5 協働による学びの体制	取組13 子どもの学びを共有できる場の創設 ●コミュニティ・スクールの体制構築と連携
	取組14 地域教育力の向上 ●地域・企業主体の学びの充実 ●地域活動への参加

## ② 施策



### 教育方針1 次代を切り拓く力の育成

郷土の先人の開拓・改革精神を引き継ぎ、新しい価値を生み出し未来を切り拓くことができる人を育てる。

#### 施策1

#### 小中一貫教育の推進

自立した人間として主体的に判断し、多様な人々と協働しながら新たな価値を創造する人材を育成するため、キャリア教育を軸とし、9年間の系統立てた学びを実現するとともに、一人一人に適した学びが提供できるようにする。

#### 取組1 小中一貫プログラムの作成

小中一貫教育のカリキュラムや学校行事、体制等について、必要な検討・試行を行い、牧之原市に最適な小中一貫教育を実現する。また、幼・保育園や高等学校との連携についても検討する。



#### 人間力の育成

予測困難な変化の激しい社会を生き抜くためには、変化に適應するだけでなく、新たな価値を創造し、よりよい将来を創り出す「知識・技能、思考力・判断力・表現力」、自己肯定感や自立心、やり抜く力といった「自分自身に関する力」、思いやりや共感する力、コミュニケーション力といった「人と関わる力」を総合的に育成することが必要である。その力を育成するため、総合学習や教科等でキャリア教育の考えを取り入れたカリキュラムを作成する。また、知識や感性・情緒を豊かなものとするため、継続した読書活動を推進する。





### 魅力ある授業づくり

主体的・対話的で深い学びの視点からカリキュラムを作成する。現在の小中学校のカリキュラムを整理し、系統性・連続性のあるものとする。

また、小学校高学年への教科担任制導入等の効果的あり方についても検討する。



### 取組2 個に応じた教育

一人一人の能力・可能性を最大限に伸ばすとともに、障がいや不登校、外国籍の子どもに対する日本語指導等に丁寧に対応するなど、個に応じた教育を実現する。



### 少人数指導・習熟度別指導

学習理解を踏まえた効果的な学びを行う。教科等の特性に応じた少人数指導や習熟度別指導ができるようにする。



### 特別支援教育

特別な教育的支援を必要とする子どもに、早期からの教育相談や支援の充実を図るとともに、きめ細やかな指導を行う。さらに、帰国・外国人児童生徒の実情に応じた指導が行えるようバイリンガル相談員を充実する。

## 施策2

### 時代に対応した教育の充実

これからの変化が激しい時代を生き抜くために必要な考え方や知識・技能を身につけることができる学びを実現する。

#### 取組3 国際理解・外国語教育

グローバル化が進展する中、日本の伝統・文化の理解、コミュニケーション力、異文化理解の精神等を育む。



#### 異文化理解

多様な文化に触れ、さまざまな価値観や文化があることを理解し、受け入れることができるようにする。異文化理解のためには、自国の文化を知っておくことが前提である。



#### 英語力向上

積極的に英語を話したり、外国人とコミュニケーションを取ったりできるように、学校や地域において、英語を使う機会をつくる。さらには、英語が社会で実際に活用されている状況を学び、学習意欲につなげていく。



#### 取組4 ICT教育等

主体的・自立的な学びのツールとしてICTは有効である。ICTを活用した情報収集能力、活用能力をつけるとともに、プログラミングや情報モラル等を学ぶ。



### 情報活用能力の育成

情報収集・選択する力、情報を整理する力、プレゼンテーション能力などの情報活用の実践力、情報の科学的な理解、情報社会に参画する態度を養う。併せて情報セキュリティやネット依存対策を始めとする情報モラルについても学ぶ。



### プログラミング学習

将来どのような仕事に就くとしても普遍的に求められる「プログラミング的な思考」を育成する。論理的思考を育み、プログラムの働きやよさ、情報社会がコンピュータを始めとする情報技術によって支えられていることに気づき、これを活用してよりよい社会を築こうとする態度を育むため、企業等と連携して効果的な学習を行う。



## 取組5 科学教育

小さな頃から、市の豊かな自然に触れることを通して、科学に興味を持つきっかけとする。さらに、科学技術や理科・数学に対する意欲・関心を高める取組を推進するとともに、市の科学分野の偉人の功績を知ることができるようにする。



### 科学への探究心を育む教育

公益法人や民間企業等の科学に関する取組を通して、子どもの科学に関する関心や探究心を育む。さらに、学校では、企業等と連携して専門的な人材の活用を行う。



## 取組6 問題発見・解決プログラム

社会とつながる中で、問題を発見し、自ら企画し、多様な他者と協働しながら新しい価値を生み出す主体性や創造性を育むことができるプログラムを実施する。



### 地域連携・体験型実践プログラムの作成

社会の一員としての主体的な地域課題の発見・解決型学習や、商品開発や店舗経営などの体験型学習、経済や金融に関する考え方の実践的な学習などを企業等と連携をしてプログラムをつくり、実践する。





## 教育方針 2 望ましい教育環境の整備

通いたい・通わせたいと思われる魅力的な学校施設や設備・機能を有する教育環境を整備する。

### 施策 3.

#### 学びやすい施設・設備

安心・安全で学びやすく魅力的な学校施設や設備を整備する。

#### 取組 7 学校再編

小中学校を再編し、新しく小中一貫校をつくる。新しい学校は、人や施設を集中し、教育環境の充実を図るとともに、まちづくりと合わせて考え、人づくりや文化の拠点として捉える。



#### 学校再編計画の策定と実行

学校再編計画に係る検討組織において、通学区域、学校の場所や施設の機能、周辺の環境及びスケジュール等について検討、策定する。策定後は、推進体制を構築して、着実に実行できるようにする。



#### 既存施設の保全計画

新しい学校の完成までの間の既存施設の改修・修繕等の計画をつくる。

## 取組 8 教育機器等の充実

教育活動が効果的・効率的に行えるよう教育機器等を整備する。



### ICT環境の整備

主体的・自立的で効率的な学習のために、文部科学省が示す目標水準を満たすことのできるタブレット等の機器や超高速インターネット及び無線LANなどの整備・充実をする。



### 教育備品の整備

充実した教育が行えるよう、備品の管理及び計画的な購入・買い替えをする。

## 取組 9 学校図書館の充実

子どもが主体的、意欲的な学習活動や読書活動ができるように、学校図書館の機能を充実する。



### 図書の充実と司書の配置

学校図書館の図書等を充実させ、その効果的な活用を図るための学校司書を配置し、子どもがさらに読書に親しめる環境を整備する。



### 授業支援できる環境の整備

授業に活かせる図書等を整備し、公共図書館等との連携を密にすることで、子どもの自主学習や教職員のサポートを行う学習支援センターの機能を充実する。



※ 文部科学省公開資料の写真

#### 施策4. 教育活動を充実させる体制の整備

よりよい教育活動ができるように、教職員の資質向上や専門性のある人材の登用及び校務の効率化を進める。

##### 取組10 教職員研修の充実

教職員の資質や指導力向上のための研修や指導体制を充実する。



##### 指導力向上研修の実施

教科指導力、時代に対応した教育への対応、子ども理解及び学校経営力等の深い専門性や広い視野を備えた頼もしい教職員を育てる。



##### 取組11 教職員をサポートする多様な人材の充実

多様化・複雑化する子どもへのより専門的な対応や、教職員が子どもと向き合う時間を確保できるようにする。



##### チーム学校の実現

課題を抱えた子どもに対し、チームで支援を行うことができるよう、スクールカウンセラーやスクールソーシャルワーカー、バイリンガル相談員等異なる専門性を持つものと教職員が連携・分担する体制をつくる。





### 外部人材の活用

教育課程の中で、専門性を持つ企業等の外部人材を積極的に活用する。その活用については、後述のコミュニティ・スクールにおいて仕組みづくりをする。



### 取組 12 校務効率化

教育の質を向上するために、校務の情報化・効率化を図る。



### 校務情報化等の推進

教職員の業務負担を軽減して、子どもと接する時間や授業準備の時間を増やし、教育の質を向上させることができるよう、校務の情報化・効率化を図る。





### 教育方針3 社会全体で子どもを育てる仕組みの構築

地域社会とのさまざまな関わりを通じて、これからの時代に必要な力や、地域への愛着や誇りを育てる。

#### 施策5.

##### 協働による学びの体制

社会全体で子どもを育てる仕組みやプログラムをつくり、着実に推進する。

#### 取組13 子どもの学びを共有できる場の創設

学校、地域・企業、家庭がそれぞれ主体的に子どもの育ちに関わる仕組みをつくる。



#### コミュニティ・スクールの体制構築と連携

子どもの育ちについて目標を共有する場として、地域協働活動と一体的なコミュニティ・スクールを設置する。コミュニティ・スクールは、地域の実情に合ったものとし、小小・小中連携体制についても順次整え、最終的に小中一貫校に適したものとできるように検討・試行・実施をする。



#### 取組14 地域教育力の向上

地域・企業主体の教育プログラムや子どもの地域行事等への参加により、地域が人を育て、人が地域をつくる好循環を実現する。



### 地域・企業主体の学びの充実

放課後や土曜日等の学習・体験プログラムの充実を図る。



### 地域活動への参加

子どもたちが地域行事やボランティア活動に参加して、地域の人や物を知り愛着を持つ活動を推進する。



### 3 推進方法・体制

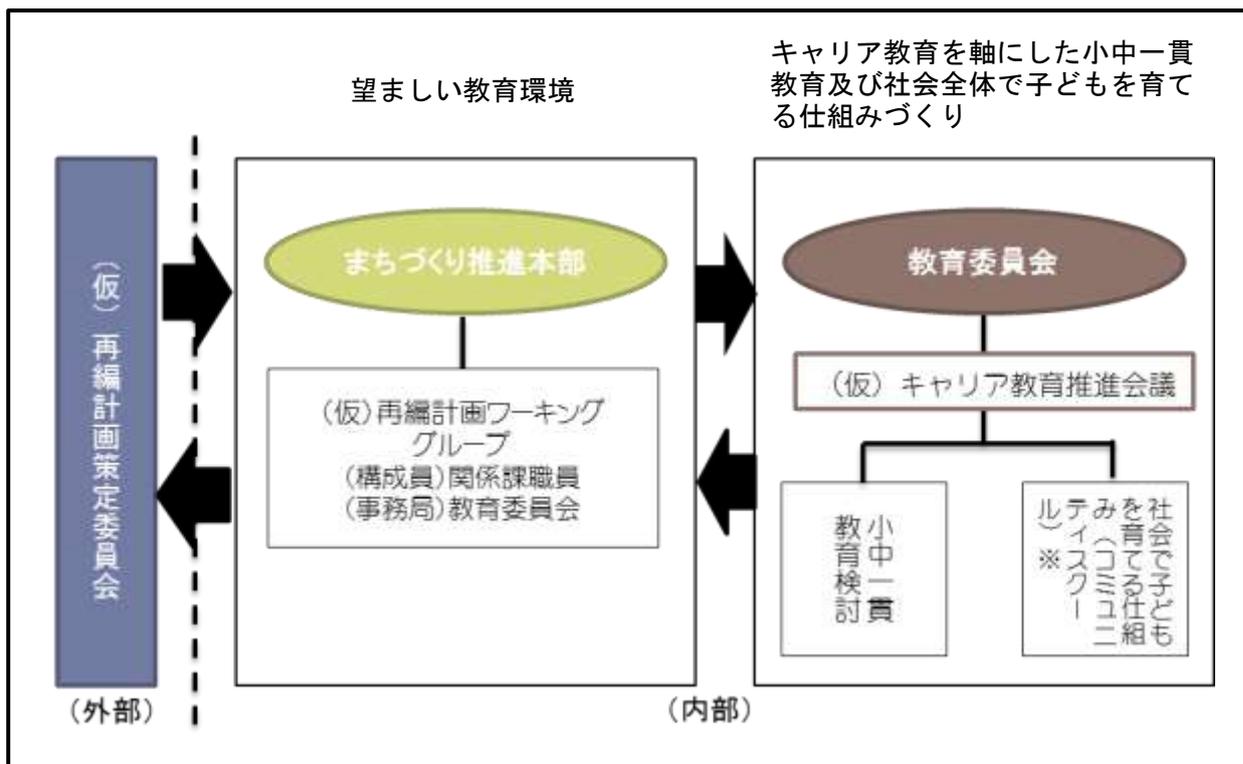
施策内容を着実に進めるため、教育方針ごとに組織を設け、検討・試行及び実行をする。

#### ① 進め方

キャリア教育を軸にした小中一貫教育と社会全体で子どもを育てる仕組みについては、教育委員会の内部検討組織と審議会において検討をする。検討及び実行に当たっては、教育委員会内に専任部署を設ける。

学校再編については、関係部署職員で構成した庁内検討組織を設ける。庁内検討組織は、対話による協働のまちづくり推進本部のワーキンググループとし、計画の素案づくりを行う。また、専門家を入れた審議会を設け、計画の検討をする。

#### 【検討イメージ】



## ②想定されるスケジュール

